

ノロウイルスに注意!

ノロウイルスによる感染性胃腸炎や食中毒は、一年を通して発生していますが、特に冬場に流行します。感染すると、嘔吐や下痢などの症状を引き起こします。また、抵抗力の弱い乳幼児や高齢者は重症化する場合もあるため、予防することが大切です。

どのように感染するのか?

① **人 → 人**

感染者の便や嘔吐物に触れた際や、感染者が嘔吐したときの飛沫を吸い込むことで感染します。また、感染者が触れた物(ドアノブやタオルの共用など)に触ることで、手指から感染することもあります。

② **人 → 食品 → 人**

手洗いが不十分な感染者が触れた調理器具や、調理した食品からウイルスがうつり、それを食べることで感染します。

③ **食品 → 人**

ノロウイルスが蓄積・付着した二枚貝などを十分に加熱せずに食べることで感染します。

どのように予防するのか?

● **手洗い**

食事や調理の前、トイレの後などは、せっけんを使ってしっかりと手を洗いましょう。感染力を失わせることはできませんが、汚れと一緒にウイルスを洗い流すことができます。

● **十分な加熱**

ノロウイルスには、85～90℃で90秒以上の加熱が有効とされています。特に、ウイルスに汚染されやすいカキなどの二枚貝は中心部までしっかり加熱しましょう。

● **器具などは塩素系漂白剤で消毒**

ノロウイルスの消毒には、アルコール消毒はほとんど効果がありません。塩素系漂白剤(成分:次亜塩素酸ナトリウム)を使用しましょう。

手洗いや消毒の方法など詳しくは [横浜市保健所 ノロウイルス 検索](#) 汚物や嘔吐物の処理方法は映像で確認(保土ヶ谷区役所 作成) [実践で学ぶ嘔吐物処理 検索](#)

☎ 生活衛生係 ☎ 800-2451 fax 800-2516

地区連長さんにお聞きしました

八木 幸雄さん (平成27年4月からいちょう団地連合自治会長)

地域の輪を広げる自治会活動を

泉区は12の地区連合自治会町内会があります。地域活動に精力的に取り組んでいる各地区連合自治会町内会長(地区連長)にインタビューします。

－自治会活動を始めるきっかけは?－

仕事が現役のときは単身赴任などで忙しく、とても自治会活動をすることはできませんでした。退職後の平成20年にいちょう団地第四自治会の事務局長を引き受けることにしたのが、自治会活動を始めるきっかけでしたね。当時は自治会長や役員を決めるのが抽選だったのですが、地域をまとめる人をそのような形で決めていいのだろうかという疑問に思い、次の年にいちょう団地第四自治会長に、平成27年にはいちょう団地連合自治会長に、それぞれ立候補して就任しました。

－地区連合自治会長になって思ったことは?－

いちょう団地第四自治会長ときは、自治会内の人たちとのやり取りが主でしたが、連合内部はもちろんのこと、いちょう団地以外の人たちとのやりとりが急激に増えたので大変でした。出席する会議や打ち合わせも多数あり、スケジュール帳はいつも埋まってしまっています。しかしながら、地区連合会長としての活動がいちょう団地と泉区をつなげる橋渡しになっていると思うと、やりがいを感じますね。

－力を入れていきたい今後の取組は?－

いちょう団地は高齢化に加えて、他の地区に比べて外国につながる人がたくさん住んでいます。言葉の問題からか、自治会活動になかなか参加をしていただけないのですが、少しでも興味を持っていただけるように、有線放送で自治会情報を発信したり、各自治会の広報などに振り仮名を載せたりするなど工夫をしています。これからも地域の輪が広がり、人もまちも活発になっていく活動を、地区社協とも一体となって取り組んでいきたいです。

－地域の方へメッセージ

今は一人暮らしの人も多く、閉じこもりがちになってしまうこともあると思います。そのような時はまず一歩外に出て、歩いてみてほしいです。あいさつをすることで隣近所の人と触れ合う機会が増え、それをきっかけにみんなが地域を知り、みんなで支え合うことにつながっていくのではないのでしょうか。



▲八木 幸雄会長

☎ 地域活動支援担当 ☎ 800-2391 fax 800-2507